

○月山にアオモリトドマツ林出現す (森邦彦) Kunihiko MORI: *Abies Mariesii* forest found at Mt. Gassan, Pref. Yamagata

昨秋、月山産の針葉樹の鑑定を依頼された。それがアオモリトドマツであったので私は驚いてしまった。御存知の様に出羽丘陵には産しないことになっていたからである。今回発見された自生地は月山山頂から2km北にあたる一ノ岳(1758m)の東1.5km、標高1600m辺りから北西の方向へ約1700-1800mの距離に亘って分布し、最低部は標高1370m位で断崖までの間にある。林帯の巾は一概には言えないが広い所では500m位はある様で、我々の見た最大木は高さが7mで胸高直径が36cmであった。而して一番多く見られたのは3-4mの高さのものであった。又立木本数は1500本位はあるだろうと推測した。又山小屋の支柱に使われる本材の一部を切りとって貰らってきたが、その形は大体円形(長径10.4cm、短径9.8cm)で、年輪数は実に120を算えたのである。

私は現場を3回訪れたが1回目は5月19~20日で一面雪に覆われておらず自由に林帶内を歩くことが出来た。而して積雪量は2.5m位であった。2回目は6月9~10日でこの時はアオモリトドマツが生育している地域は雪が殆んど消失しており、灌木林中に本樹の稚樹や50cm, 1m, 2m高のものが生育しているのを確認した。木々は未だ芽を殆んど展開していない。3回目は8月21~22日で灌木類が生い繁りその中を進むことは極めて困難であり、定めた目的に向って前進したが止むなく引き返すより方法がなかった。この地域内の主な植物はミヤマナラ、ナナカマド、ミネカエデ、マルバマンサク、*Sasa* sp., アカミノイヌツゲ、ヤハズハンノキ、オオカメノキ、シロバナシャクナゲ、



図1. 風と雪とに抗して成立しているアオモリトドマツ林 (1962. 5. 19 撮影)

ウラジロヨウラク, ツルシキミ, ヒメモチ, イワナシ, ゴゼンタチバナ, ミツバオウレンその他である。

さて出羽丘陵に針葉樹林帯が欠除していることについては古くから林学者間に色々の説がなされていたことであるが、本帯の生すべき場所が極めて多雪であるで多雪に対する適応性のない、即ち匍匐性をもたないアオモリトドマツは生ずることが出来ないのではないかと云う考え方方が有力であった。然し私は今度月山の現場を見て欠除の原因は冬季間の猛烈な季節風にあると判断した。即ち月山頂上から北方へ延びている稜線が（西側斜面は急峻である）冬季に吹きつつの西風を防ぎ、結局本樹の生育している地帯は風から保護されている訳で、ここにアオモリトドマツ林が出現した次第である。因にここ一帯は月山でも最多雪地の一つとなっているのである。尚、詳しくは日本林学会誌に投稿しましたから御覧下さい。



図2. 私の見た最大のアオモリトドマツ。
直径 36 cm, 樹高 7 m (1962, 5.19撮影)。

I found the *Abies Mariesii* forest at Mt. Gassan this spring (1962). Hitherto, it has been said that there is no coniferous forest zone in Dewa-kyūryō (Mt. Chōkai, Mt. Gassan, Mts. Asahi and Mts. Iide). The reason for the absence of coniferous forest has been said that the place where the coniferous forest ought to appear is covered with the thickest snow and *A. Mariesii* has not adaptability for the thick snow, i. e. it has no prostrate nature. According to my observation on the scene, the reason for the lack of coniferous forest zone is the influence of a severe seasonal wind in winter.

(山形大学農学部)